



ちょうどいい田舎 信州中野で暮らす

あなたが住んでいるまちはどんなまちですか――。
そう聞かれたら、あなたはどうか答えますか。

今、中野市の人口は減り続けています。
その一方で、この地に何かを求めて、また魅力
を感じて移り住んでくる人たちがいます。

今回の特集のテーマは、移住――。

移住者の声を聞き、暮らす姿を知ること、私
たちが気付いていないまちの魅力が見えてくる
はずです。

長野県の北部に位置する中野市。中央には千曲川が流れ、東には志賀高原、西には北信五岳を一望でき、「日本のふるさと」といえる原風景が広がります。

ただ、そんな自然豊かな本市も、人口に目を向けると2000年の4万7845人をピークに年々減り続けています。出生数の減少や、就学・就職のために若者の市外への転出が続いていることなどで、15年には4万3909人と、15年間でおよそ4千人減少しています。

一方で、中野市に魅力を感じて移住してくる人たちもいます。

数あるまちの中で、何を感じてこの地を選んだのか―。

移り住んだ今、何を思い、どう暮らしているのか―。

私たちが気付いていないまちの魅力を知る上で、移住者の皆さんが口をそろえる「ちょうどいい田舎」という言葉にヒントが隠されているのかもしれない。

